



ジェノヴァと東リヴィエラ

リグリア州は、ヴァカンスを過ごすための新しい可能性を、観光客の皆様へ毎年提供し、太陽と海への欲望を、歴史的な景色を見て、比類のない自然の美しさを堪能し、文化的にも料理やワインを楽しむというおもしろさと結び付けています。歴史の知識を深め、それと同時に休暇の日々を十分に楽しむことができるよう、州都であるジェノヴァと東リヴィエラが、数多くのチャンスを包括的に提供しています。街の中で、そしてリヴィエラで、海岸からヒンターランドへ、感覚と感動の高まりをもたらす、たくさんのおすすめのルートがあります。それらのルートは、地中海地方独特の気象条件のおかげで、一年を通じて実現可能です。

ジェノヴァは、イタリア中のいかなる他の街でも見られない都市の再生によって再発見された芸術品を、過去数年にわたって明るみに出しました。街の各地区と古い港の周辺が、人を引きつけるものに生まれ変わりました。そこには、子供の街、素晴らしい水族館、旧綿倉庫、もてなしの良いレストランや公共施設などがあります。ジェノヴァは、この街がたどった歴史を急速にさかのぼりながら、13世紀から19世紀にかけて商業、発見、歴史的な出発に満ちていた輝きを港湾地区によみがえらせているのです。ですから、長い年月の後に再びジェノヴァを訪れた人や、初めてポルト・アンティエコ（旧港）に足を踏み入れて、街の喧騒

から離れた海に面したサロンを目にする人は、驚きに目を瞠るのです。

東に移動するにつれて、次第に濃くなる地中海の緑と、それと対照をなす海の青の印象が強まります。カモッリの punta・キアッパとポルトフィーノという非常に愛らしい二つの岬は、街のざわめきからはひっそりと離れた存在であり続けています。一方で海岸沿いには、春から秋まで海水浴が楽しめる砂浜や岩礁があります。冬には、海の色とその力強さだけが与えてくれる光景を楽しむことができます。リアス式海岸や、入り江、砂浜からほんの数キロ離れたところに、リグレ山脈の山々へと連なる丘がのびています。ジェノヴァを後にすると、その歴史の面と、また近年の観光の発展という面から重要な意味をもつ場所が続きます。まずは、カモッリとレッコが挙げられます。ティグリオ地方では、過去に重要な国際会議の舞台となり、また優れたホテル施設で有名なラパッコ。上流階級の人々やジェットセット族の人々に好まれ、また国際的な結婚式の場所としても知られるポルトフィーノの近くに位置するサンタ・マルゲリータ・リグレには、高いクオリティーのホテル群があります。ティグリオ地方ではその他にも、独特な柱廊が街の中心に広がり、ショッピングを楽しむのにも適した、千年以上の歴史のあるキアヴァリヤ、イタリア人や外国人の海水浴客で賑わい、東リヴィエラでティグリオ湾の終着点となる、ラヴァーニャ、セストリ・レヴァンテ、モネリアがあります。そしてティグリオ地方は、夏と冬に人で賑わう、サント・ステファノ・ダヴェトで、アペニン山脈の高い頂に到達します。整備

宿泊施設は、デラックスホテルからベッド&ブレイクファスト、そしてアグリツーリズムにいたるまで大変多様性に富み、ジェノヴァの都市部から海岸沿いやヒンターランドまで、地域すべてにくまなく存在しています。また、多くの小さな港から、リグリア海やクジラの聖地をめぐる（一年の中で期間が限定されています）小旅行のための、チャーターボートが利用できます。ジェノヴァとティグリオ地方に関するさらなる詳細は、インターネットの www.genovatouristboard.net と www.portofinobayarea.com の英語のページでご覧いただけます。

ジェノヴァの空からの眺め



されたルートは数多く、簡単なルートから、二つ以上の州にまたがるリグレ山脈の山道の一部を成す難しいルートまであります。また、ゴルフ（アレンツァーノとラパッコ）、クロスカントリースキー（サント・ステファノ・ダヴェト）、難破船を見学する潜水（セストリ・レヴァンテ-サンタ・マルゲリータ・リグレ）、釣り、水中撮影、トレッキング、マウンテンバイク、フリークライミング、パラグライダーなど、一年を通じて様々なスポーツを実践することができます。

また、ジェノヴァとティグリオ地方の風景の描写をまとめる上で、素晴らしい品質のオリーブオイルの生産、ワイン、地元で獲れる魚介類、ヒンターランドの独特な料理などを誇る、リグリアの名物料理を忘れることはできません。

四季を通じて均質な気候

ジェノヴァと東リヴィエラは、その観光の歴史の始まりから常に、気候のおかげで成功をおさめてきたと言うことができます。好ましい気象条件によって、一年のあらゆる月を通じて小旅行やハイキングが可能のため、ヨーロッパの国々からの旅行者や、イタリア北部の大都市に住むイタリア人、そして海を越えた国々からの旅行者を引き付けるために、これは非常に重要な要素です。夏の間は、ヒンターランドに近い海岸沿いでは、空気が急速に入れ替わり、そのため夕方には日中の炎暑を和らげる山から海への涼風が吹きます。それと同時に、太陽の動きによって方向を変える海風のおかげで、日中には過ごしやすい温度となります。

一年を通じてのこの穏やかな気候は、春と夏の海水浴の他に、冬と秋には、ヨーロッパで最も魅力的な都市の一つであるジェノヴァと、リヴィエラ海岸の美しい街々を訪れるための滞在を快適なものにしてくれます。

ヨット、カヌー、釣り、水中撮影など、ウォータースポーツの愛好家の方々にも、この気候が好まれています。また、陸上でのハイキングを好む方にも最適の気候です。実際、トレッキングには、一年を通じて生い茂る地中海の典型的な植物群を楽しむために、秋から冬にかけて海岸のすぐ背後の尾根や山々に沿っての散策がおすすめです。



港の夜景

ジェノヴァとティグリオ地方の料理

リグリア州の料理について語る時、すぐに魚介類をベースにした料理を考えがちですが、これは誤りです。実際、魚介類が主要な素材だということは確かですが、ここ十年ほどで再発見された、農民の伝統に由来する多様な料理が、アグリツーリズムの会社や田舎風の料理のブームに驚くべき成功をもたらしたことも事実です。野菜の詰め物、香草の入ったタルト、復活祭風タルト、エジプト豆のファリナータ、パニッサなどの名物料理がその代表です。

その中でも、最も愛されている名物料理の一つ



ジェノヴァのレストランの典型的な料理

が、オリーブオイルを使ったジェノヴァ風フォカッチャと、その変形タイプである、タマネギを加えたもの、オリーブの実を加えたもの、セイジを加えたもの、そして特に“レッコのチーズ・フォカッチャ”でしょう。このレッコの素晴らしい豊かなフォカッチャは、その素朴さが格別な料理であるというだけでなく、このリグリア州の小さな町に名声と幸運をもたらした、伝説的な料理でもあります。非常に薄く、薪のオーブンの熱で表面が軽く焦げるまで焼いた、クリームのようなクレシェンツァチーズを中に詰めたフォカッチャです。

自生の香草を使った素晴らしい例が、パスタの詰め物やつけ合わせとして使われる、“プレブジュン”です。これには、ビート、ルリチシャ、セルフイコ、ノゲシ、ギョウギシバ、ルリハコベ、チコリ、カブラギキョウ、イラクサなど、その他にも様々な香草が使われます。

パスタに関して、歴史的に評価すべき事実があります。ジェノヴァの国立文書館には、13世紀に、つまりマルコ・ポーロが中国への旅から帰る前に、パスタがすでに使用されていたこと示す文書が保管されています。トレネッテ、タリエリーニ、フェットウッチャーネなどのロングパスタ、そして、コルツェッティ、トロフィエ、ニョッキ、ラザーニャなどのショートパスタ、小麦粉だけを使ったパスタや、小麦粉にクリの実の粉を加えて練ったパスタなどがあります。

ミートソースで食されるラヴィオリと、クルミのソースで食されるパンソッティは、詰め物の味わい深い世界に私たちを導いてくれます。前日の料理で残ったものを利用する、味のある方法です。そして、詰め物料理の大御所ともいえるのが、チーマと呼ばれる、子牛の胃袋に、卵、脳、チーズ、エンドウマメ、松の実を詰めて茹でた料理です。

そして青身の魚。“アンチョビーの文化”は、リグリア州にしっかりと根をおろした要素となりました。この小さな魚は、パン粉をまぶしてフライに、詰め物に、“バニョン”と呼ばれるスープに、そしてもちろん塩漬けやオイル漬けにして食されます。ツナ、サバ、タコを少々、モスカルディーノをほんの少し。これが乾燥した塩漬けの鱈と干鱈をベースにした料理の材料で、煮込み、ボイル、衣をつけたフライの形で食されます。

最後に、もともと宗教的祭日（クリスマス、復活祭）の前日に食される質素な料理であったものが、海と山の幸で味わいを豊かにした、脂肪分の少ないカッポンが挙げられます。これには、カサゴ科の魚、ホウボウ、エビ、小ぶりのアーティチョーク、キノコ、ビート、ジャガイモ、カリフラワー、ズッキーニ、サヤインゲン、ニンジン、フタナミソウなどが使われ、これらすべてが水と酢で湿らせた乾パンの台の上に盛り付けられます。

“ワインなしで、食事などできるものか”と、ジェノヴァの港の飲食店の主人がよく言っていたものでした。今までに述べた料理とよく合う、東リヴィエラのブドウ畑から生産される、いくつかのワインとしては、ビアンケッタ・デル・ティグリオ、チリエジョーロ、ムザイコ、ヴェルメンティーノが挙げられます。



アレンツァーノのネグロット・カンピアーノ邸

手工芸品

ストウルラ渓谷のカンポリグレという地区が、金の線細工工芸、絹、マクラメ、ダマスコ織、浮き織の錦、ビロード、トンボロと呼ばれるレース編み台で編まれたレースで有名ですが、それらはティグリオ湾地方の織物業の一部を成すものであります。それらは、はるか遠い東洋の国々からその原料が届いた時代を思い起こさせるほど、大変に古い起源をもつもので、現在でも古い手機を使ってゾアーリの絹織物工場で行われています。ここでは、スカーフ、ネクタイ、襟巻きなどの他にも、すでに16世紀にはジェノヴァの貴族の人々のための衣服に仕立て上げられていた、滑らかな絹の驚嘆すべきビロードの製作が行われています。ゾアーリのシンボルは、オペラ“ラ・チェーナ・デッレ・ベッフェ”の有名な作者である、セム・ベネッリのために1920年代に建造された城です。前世紀には、多くの女性にとって、トンボロのレース編み台で働くことがごく普通のことでしたが、現在この幾世紀も経た伝統は、ダマスコ織のふるさとである、フォンターナブオーナのロルシカという村で驚きをもって見学することができます。

手工芸品について語る時、以前にはビリヤード台や学校の黒板として、そして現在では調度用の物に加工され、フォンターナブオーナ渓谷に名声を与えた、特別な黒い石、石盤石についても少し語らなければなりません。

手工芸といえば、黒い石もそうですが、木材も多く使われています。船造りの匠といえる船大工たちが、現在でもラヴァーニャのデヴォート通りで働いています。また、“カンパニーネ”と呼ばれる、真の芸術作品とも言える椅子の工芸が、現在でもキアヴァリの中心地区で続けられています。

ジェノヴァ：意表をつく街

芸術、名所、歴史、そして環境の偉大なる遺産を誇るジェノヴァは、常に訪れる価値があります。実際、過去何世紀にもわたってこの街がヨーロッパの中で果たしてきた大きな役割について思い出すだけで、ここを訪れる十分な理由が見つかります。ジェノヴァは、立ち並ぶ宮殿の豪華さと壮麗さによって、“ラ・スーペルバ”（誇り高き都）と呼ばれていました。その代表的な例が、ルーベンスがそのデザインの中で表現した時代とまったく同じ様相を誇る、アウレア通り（ガリバルディ通り）です。まさしくそのルーベンスの時代をテーマとして、ジェノヴァ2004の主要な展覧会の一つが開催されました。

旅程：ジェノヴァ、文化の街

バルビ通りとガリバルディ通りを歩いていると、古く豊かなジェノヴァの貴族社会へと、時間を反対の方向へと旅をしている感覚におそわれます。バルビ通りの王宮に入ると、テラスに設けた庭園や、白と黒の小石で造ったモザイクの床の美しさに目を奪われます。二階の各広間では、バロックの彫刻や、ティントレット、ヴァン・ダイク、ジェノヴァ派やボローニャ派の画家たちのつづれ織の布や油絵を楽しむことができる、国立美術館があります。ガリバルディ通りに沿って、ガリエラ公爵夫人によって19世紀の終わりにジェノヴァ市に寄贈された、貴重なコレクションのある有名な美術館を館内に有する赤の宮殿、そして、



サン・ロレンツォ大聖堂の眺め

それから、2001年のジェノヴァサミットの舞台となり、またルーベンスに捧げられた展示会の場所でもあったドゥカーレ宮殿。すでに中世の時代には有名な銀行がそこに本部を構え、何世紀にもわたってヨーロッパの最も重要な宮廷の数々に資金を提供した、サン・ジョルジョ宮殿。十字軍の時代に、最古の軍隊の病院の一つであったコメンダ・ディ・プレ。ロマネスクとバロックの様式の美しい教会、20を超える美術館、数多くの劇場、特に再建されたカルロ・フェリーチェ・オペラ劇場などが見所です。

ジェノヴァは、お子様連れのご家族の皆様にとっても、理想的な訪問地です。中でも、水族館（屋内の水族館としてはヨーロッパで最も重要なもの）と、建築家のレンツォ・ピアノ氏によって再計画されたポルト・アンティークにある子供の街という、興味深い二つの施設を訪問するのがよいでしょう。

新しい“臨海地区”で最近オープンしたものの一つが、ガラタ・海の博物館です。この2004年の夏にオープンした新しい建築物は、一万平方メートルの展示スペースで、地中海地方では最も大きな博物館となっています。

クリストファー・コロンブスだけがジェノヴァ人だったわけではありません。他の多くの有名な航海者たち、そしてイタリアをヨーロッパに、そして世界に向けて示した、偉大な政治家たちも輩出しました。

ジェノヴァはまた、背後にある高い山脈と、地中海で最も魅惑的な景色の一つを形成する、ふたつの素晴らしいリヴィエラ海岸とに囲まれた景色という点からも、理想的な目的地であります。



ガラタ海の博物館



現代美術館 - ネルヴィ

2004年のヨーロッパ文化首都のために完全に再整備され、フランドル派の芸術作品や、ルーカ・カンピアーソやジョアッキノ・アッセレートのような、偉大なる芸術家の作品を楽しめる、白の宮殿があります。さらに、ジェノヴァ市の市庁舎であり、現在ではその一部が美術館としても公開されているドーリア・トゥルシ宮も一見の価値があります。そこには、“イエスのガールネーリ”と呼ばれる、ニコロ・パガニーニのものであったバイオリン保存されています。その近くには、キオッソーネ美術館があり、中国や日本の版画、彫刻、武具、漆器、織物、仮面などを嘆賞することができます。東洋美術の愛好家の方には見逃せません。エドアルド・キオッソーネ東洋美術館は、その周囲に壮麗なヴィレッタ・ディ・ネグロ公園が広がる丘の上にあります。その現代的な建物は、1942年の戦中の爆撃で破壊された屋敷の代わりとして、マリオ・ラボの設計に基づいて1971年に建造されました。

展示されている美術品は、彫版師であったジェノヴァ生まれのエドアルド・キオッソーネの、19世紀末の23年間に及ぶ日本滞在の間に行った、収集活動の賜物です。キオッソーネは、日本政府のために紙幣、切手、有価証券の発行を指導するために、イタリア財務省から派遣されていました。約一万五千点にも及ぶキオッソーネの収集品は、日本の造形と装飾の伝統全般に対して、この彫版師がいかに大きな関心をもっていただかを示すものです。

1998年に一新された作品の展示は、日本と東アジア大陸との関わりに関して、日本文化の歴史の本質的な事象を照らし出すものです。

張り出しの5つのギャラリーは階段でつながれ、先史時代と原始時代から始まり、続いて、中国と日本の鏡、仏像、木製の彫像、宗教用の備品、侍の装備、お面、釉薬を塗った陶器、磁器、漆塗りの器という、テーマごとに分かれたセクションへと移っていきます。

Info: www.museochiossonegenova.it

街を見下ろすモンテガレットの丘の高台に、近年新しく生まれ変わった、ジェノヴァの文化遺産のもう一つの宝石があります。それは、世界の文化と世界の音楽の博物館である、ダルベルティス城です。

この城を作り上げ、また唯一の所有者でもあったダルベルティス海軍司令官は、その死に際して城のジェノヴァ市への寄贈を望みました。そのダルベルティス司令官による、民族学、考古学に関する収集品は、航海の部屋、トルコの部屋、コロンビアの部屋、日時計の部屋を見学しながら、旅人であり、またジェノヴァで生まれた海の男であった司令官が訪れた民族についての知識へと、訪問者を導く行程への出発点となっています。

旅の途中で出会ったエキゾチックなもの、“異なったもの”に魅惑されていた司令官の、19世紀の装備の綿密な再現から、近年の修復によってよみがえった、19世紀の稜堡の部屋へと続きます。この部屋では、私たちの文化と異文化とを照らし合いながら、ヨーロッパの外の世界に関する展示が、その器材を作った土着民族の現在の参加と共に行われています。

そして最後に、城の内部に、世界の楽器、研究室、上演、展示会、聴取などが行われる、世界の音楽の博物館があります。

Info: www.castellodalbertis.comune.genova.it



ジェノヴァの典型的な細い路地

旅程：ジェノヴァのポルト・アンティーコへ下っていくと

ポルト・アンティーコに向かって道を下っていくと、ドウカーレ宮殿にたどり着きます。その東側は、修復された壮麗なデ・フェラーリ広場に面しています。この宮殿は、1992年のコロンブス記念祭に際して修復され、その内部には、下院と上院の広間、そして豪華な総督の礼拝堂があります。その近くには、この街の中世の主要な建造物である、サン・ロレンツォ大聖堂があります。そのファサードは、白と黒の縞模様で飾られていて、二つの鐘楼とゴシックのアーチを有します。内部の地下には、サン・ロレンツォ宝物館があり、ビザ

港湾地区、水族館付近



ンチン美術のザッカリア十字、聖ジョヴァンニ・バッティスタの灰の入った箱と、十字軍から戻ったグリエルモ・エンブリアコがジェノヴァに持ち帰ったとされる聖杯を見学することができます。海に向かって、無数の魅惑的な“カルッジ”（フライ専門店、商店、工房、画廊、人のたむろする店などが立ち並ぶ細い道）を歩いていくと、ポルト・アンティーコに着きます。

建築家のレンツォ・ピアーノ氏の才能によって、この地区は、新しい観光の目的地を生み出し、地区をより良く活用するために生まれ変わりました。17世紀に帆船が係留していた場所が、現在では、ジェノヴァの観光の第一の名刺となる、主要な呼び物となっています。ここには、数多くの人々が訪れる水族館、ポートでの港めぐり、子供の街、ピゴ（海からのジェノヴァの素晴らしい眺望を楽しむことのできるエレベーター）、サン・ジョルジョ宮殿などがあります。

古いドックがあった場所にオープンした、ガラタ・海の博物館は、じっくりと見学する価値があります。知識を得るとともに、楽しみのある見学をすることができます。17の大きなホールの中に、港と造船所の環境を壮観に再現したものや、マルチメディアや豪華な音響と視覚効果を用いた据え付け、航海に用いられた器具や地図、航海図、兵器、古い絵画などが展示されています。

旅程：天国の湾とティグリオ地方

海岸に沿って東へ進んでいくと、古い伝統をもつ優雅な保養地で海水浴が楽しめる、ネルヴィに着きます。ここには、ヨーロッパのエリートたちが、冬を過ごすためにやって来る場所でした。現

在は、ジェノヴァ市の最東端を成す場所であり、海に切り立った見事な断崖に沿って伸びる、“アニータ・ガリバルディ”と名付けられた海沿いの遊歩道や、絵画的な小さな港、GAM - セッラ邸の現代美術館、グリマルディ・ファッジオ邸のフルゴネコレクション、ルクソール美術館や、ネルヴィ公園などのある、快い滞在におすすめの場所です。

ジェノヴァの東海岸に沿って曲がりくねって伸びるアウレリア通りを進んでいくと、ネルヴィからカモッリまでの間に、ボリアスコ、ピエーヴェ・リグレ、ソーリ、レッコと、天国の湾に面した町を次から次と見ることができます。リグリア州の料理の首都とも言えるレッコは、真似のできないチーズフォカッチャで特に有名です。カモッリの美しい風景が、私たちの足を止めさせます。そこは、船乗りの古い伝統を今も残した、何千もの白い帆船つらなる小さな町です。サン・フルットウオーゾは、そこに建つ僧院と、水深17メートルの海中に置かれた、深海のキリスト像で世界的にも有名な、独特な入り江です。



海からのカモッリの眺め

道に沿っての東への旅は、有名な保養地で海水浴も楽しめ、その歴史は12世紀にまでさかのぼることのできるサンタ・マルゲリータ・リグレへと、私たちを運びます。もともと自然がこの地に与えたものを、過去の世紀の間に、人間の力がその自然に鮮明さを与えました。

街の海岸通りを見下ろす高台には、広大な公園に囲まれた、ドゥラツツォ宮があります。サンタ・マルゲリータ・リグレは、観光の中心、そして多くの会議が開催される場所としても知られています。

サンタ・マルゲリータとポルトフィーノの間には、チェルヴァーラ修道院があります。その起源は、聖ジローラモに捧げられた新しい僧院の建設のために、最初の石が置かれた1361の夏にさかのぼります。現在では個人所有となっていますが、3月から10月までの各月の、第一と第三日曜日に訪問することができます。

そして、やっとポルトフィーノに着きます。その岬は、地中海灌木地帯を愛する人々の、真の目的地となっています。世界的に有名なこの観光地は、比類ない美しさをもつ自然の風景に囲まれています。ローマ通りからは、とてもカラフルな家々や、大変に豪華なヨットがいかりを下ろす小さな港に囲まれた、ピアツツェッタ（小さな広場）へとたどり着きます。その周囲の、マルコーニ波止場と岸壁に沿った柱廊の下に軒を連ねる、有名なブティックや高級店の数々、高級なレストラン

などが、全国そして国際規模のイベントや催しを際立たせます。世界中に知られた“ピアツツェッタ”からは、坂道を登るとサン・ジョルジョ教会へと行くことができます。

ラパッロは、この地方で最も古い町です。ローマ時代よりも前に、リグリ・ティグリ族の名から、この湾にその名前が与えられたと言われています。第二次ポエニ戦争の最中に、ハンニバルも通ったと伝説が伝える中世の橋は、すでに古い時代におけるラパッロの重要性を証明するものです。12世紀に建造されたドゥオーモ（大聖堂）は、聖ジェルヴァジオと聖プロタジオに捧げられたものです。新古典主義スタイルの大理石のファサードを有し、その内部には、フィアゼッラとカンピアーソの作品が保存されています。

14世紀から20世紀にかけての金細工製品、象牙、磁器、彫刻、絵画などの貴重なコレクションを一般に公開している、ガッフォーリオ美術館や、16世紀から20世紀にかけての大変珍しく貴重な1400ものレースの手芸品や、衣服、調度品、数多くのトンボロと呼ばれるレース編み台などから成るコレクションを展示するレース美術館も、非常に興味深いものです。

しかしラパッロは、その美術と歴史によってだけ知られているわけではありません。ゴルフの愛好家の方には、クリスティ溪谷のシトー派修道会の施設の廃墟という比類のない景色を背景とした、18ホールのあるコースのあるゴルフクラブ・ラパッロがあります。

アウレリア街道をさらに進むと、絹とビロードで有名な、上品なゾアーリの町があります。

キアヴァリは、リグリア州で最も長い屋根つきの商業地区である、有名なカッルージョ・ドゥリットで知られています。そこでは、ショッピングだけでなく、木工芸（椅子）の工房の見学も楽しめます。19世紀の新古典主義のファサードをもつノストラ・シニョーラ・デルオルト大聖堂は、17世紀の前半にその歴史をさかのぼります。庭園のあるロッカ宮殿には、考古学博物館があります。

そこから東へ進むと、フィエスキ伯爵のふるさとであり、その伝統を守り継ぐラヴァーニャがあります（8月14日のフィエスキの菓子祭りは見逃せません）。ラヴァーニャから約4キロの場所に位置するのがコゴルノの町で、古いフィエスキ家の聖堂があります。これは、国の史跡であるだけでなく、リグリア州で最も重要なロマネスク - ゴシック様式の建造物の一つです。



海からのポルトフィーノの眺め

セストリ・レヴァンテは、この町に滞在した作家の H. C. アンデルセンにちなんで、子供の街と呼ばれています。この小さな町は、静けさの入り江、そして、おとぎばなしの入り江という、二つの入り江で大変有名です。数多くの4ツ星や5ツ星のホテルや、レストラン、ブティックに加えて、ジェノヴァの名家の歴史的な邸宅も多く、近年修復の行われたデッランヌンツィアータ会議場もあります。椰子の木に飾られた海沿いの散歩道を進むと、観光と漁業のための小さな港にたどり着きます。地中海灌木の緑と海の間にはめ込まれたようなモネリアは、チンクエッレの手前でティグリオ湾の最終点となります。

ティグリオ地方が提供する数多くのチャンスの一つは、海からほんのわずかの場所で、緑と草木が繁茂したヒンターランドを楽しむことです。谷あいへの小旅行が、リグリアの味覚を求めるだけではなく、地元の産物と習慣に関する多くの好奇心を求めるといふ、気分転換のひとつとなります。

キアヴァリとラヴァーニャの背後は、ストウルラ溪谷とグラヴェリア溪谷、そしてさらに上ると、フォンターナブオーナとダヴェト溪谷、さらにはグロモロ溪谷とペトロニオ溪谷がセストリ・レヴァンテの背後に広がります。ヒンターランドの最も重要な観光名所は、中世のマラスピーナ城を有するサント・ステファノ・ダヴェトで、冬も夏も多くの観光客で賑わいます。そこから海の方に下りていく途中には、ボルゾーネ僧院のあるボルゾナスカと、フィエスキ家の聖堂のあるサン・サルヴァトーレ・ディ・コゴルノがあります。



Azienda di
Promozione
Turistica

APT GENOVA
Via Roma 11/3
16121 GENOVA, Italy
E-mail: aptgenova@apt.genova.it



APT TIGULLIO
Azienda Promozione Turistica

APT TIGULLIO
Via XXV Aprile 4
16038 Santa Margherita Ligure (GE), Italy
E-mail: infoapt@apptigullio.liguria.it